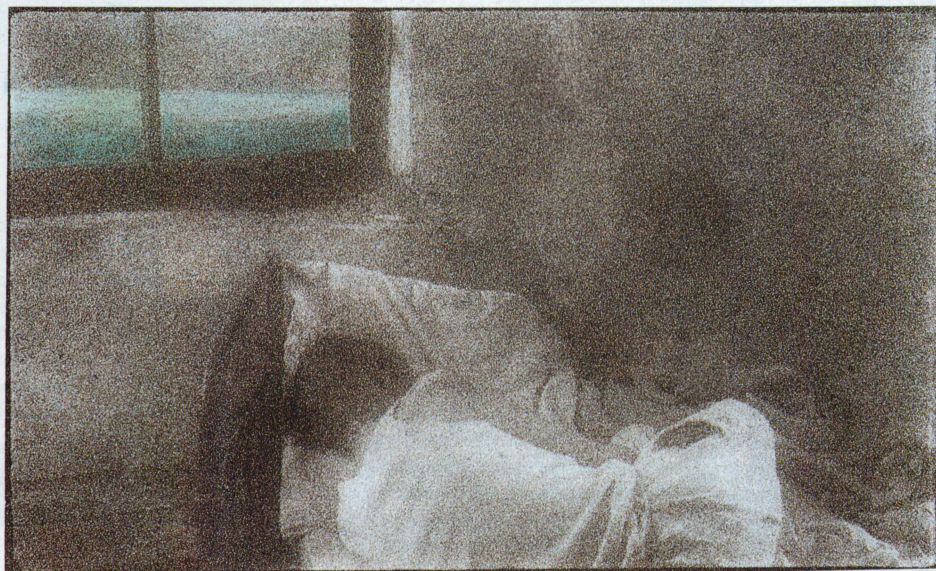


いまわのきわの接吻...

A.N.ソクーロフ監督作品

ロンアン・エレジー

АЛЕКСАНДР СОКУРОВ
ЭЛЕГИЯ ИЗ РОССИИ



撮影○アレクサンドル・ブーロフ

録音○ウラジーミル・ベルソフ

編集○レーダ・セミョーノヴァ

音楽○チャイコフスキー「フランスの古い歌」

1993年○カラー○68分○ロシア映画○35mm○1:1.66○配給○パンドラ

ロシアン・エレジー

1993年 カラー 68分 ロシア映画 35mm / 1:1.66

『ロシアン・エレジー』へのオマージュ

石原 郁子
(映画評論家)

痛 苦が限りなくエロティックである場所。黙示が
 壮麗な美に変容する一瞬。半は死であり、
 半は夢であるもの。天使たちの遠いははた
 き、神のかすかな瞬き。ソクーロフがからみついてくる。
 ひそやかに、静謐に、神々しく、たが執拗に、ホルノ
 のように煽情的に。私たちの生理を内側から浸し、ゆるや
 かな半覚半睡の曖昧なほの暗さへいざなう。ソクーロ
 フの冷たい青。ソクーロフのセピア色。ソクーロフの鷲。
 ソクーロフの陽光。風景の奇怪な柔らかなさ。挽かれた
 空間に揺れ動く感触の妖しさ。たぶん私たちが生
 まれる前に知っていた風景。羊水のなかで、揺すぶら
 れ、まどろみながら眺めていた風景。懐かしく、悲しく、
 恐ろしい場所。権威と秩序の守り手たちにはどうにも
 我慢ならないであろうほどに、私たちの血管のなかで
 とめどなく分裂し、増殖し、はらわたから狂おしくしみ、
 過激に侵食する、ソクーロフの危険な触手。



ているが、どこか滑稽で現実感を欠いたフィルム。そこ
 では珍しく画面と爆発音がシンクロしているようだが、
 実際には、突然混じりけたたましい女性の笑い声、奇
 怪な男性の含み笑いのために、それもあやしい。それ
 で、例によってソクーロフが仕掛ける創造物たち。それ
 とも、半・創造物と言うほうがいいだろうか。水の中に
 倒れた兵士の目が捉える、小魚の群れのようにきらめ
 きた木の枝。羊菌に似た植物を羽毛に持つように
 見える鶴。卵のように、されこうへのように、脳のもの
 のように見える、男の丸い頭。よく見れば正体は明らか
 だが、一瞬不安な異物のようにぎょっとさせるものた
 ち。凍てついて濁む水の作り出す不思議な文様と、突
 然眩暈を誘うような遠近法で出現する、その彼方の
 山と森。その手前に、やはり突然眩暈を誘いつつ現わ
 れる子供。森。木々。風にざわめく木々。蒼ざ
 めたモノクロから、セピア色になり、カラーに変容し、過
 去形から現在形へ、その逆へと、時を一瞬に駆け抜ける
 画面。昏い風景に光が当たり、暖かなオレンジ色に溢
 れて、またたちまち暗ってゆく。長い時の一瞬への凝
 縮。そして、白く光の当たった一本の道が、いつまでも
 目に残る。



何 も見えない昏い画面。そこに蒼ざめた手が
 現われる。動かなくなった手と、それに重ね
 合わされる手。末期の病人に囁きかける言
 葉。幾葉もの古いモノクロの写真。橋や鉄橋。川沿い
 の集落。水辺の家々。倉庫あるいは工場。水に浸か
 る教会。川岸の段丘。道をゆく少女。子供たち。黒
 いずきんを纏う女たち。集会する男たち。馬の引く小
 さな荷車。床に、土に、横たわって眠る女たち。小舟。
 船に乗ってゆく人々。私たちはなぜいつも、古い写真
 に、そこに写っている人々の素朴で生々しい表情に、
 古びた村のたたずまいや道に、魅せられるのか。画
 面外の音。画面に映るものとほとんど関わらず、画面外
 にざしき響き、遠ざかたり近づいたりする音。工場の機
 械音？ 足音？ ドア？ 食器あるいは病室の用具のぶつ
 かり合い？ 走るバイク？ 風のざわめき？ そして限
 りなくひそやかな、定かでない人の声。唐突に画面は
 変わり、第一次大戦のフィルムになる。銃と大砲が轟
 き、光と煙が炸裂し、兵士たちが逃げたり攻撃したりし

こ の映画が特定の政治的な状況を象徴して
 いる、という視点は、成立しつつ同時に失速
 し、墜落する。ソクーロフは結局は何も象徴せ
 ず、語りたものを直接に語るのではないか。彼は見
 つめ、見つめるものと語り方を選び、選ぶことで意志や
 姿勢や感情を示す。ただ、彼の見つめ方、その選び
 方と語り方の、とてつもない巨きさ、深さが、彼の映
 画を否応なく個別の状況から押し出して、汎宇宙的な
 展がりへと融合させる。身も世もなく悲しいのに、その
 悲しみが、あらゆる時空に融け入る安らかな幸福感で
 さえある、ひとときの淡いまどろみ。悲しい人間だった
 チャイコフスキーの悲しげな小曲が、その束の間、私た
 ちの夢のやさしい子守歌になる。

АЛЕКСАНДР СОКУРОВ
ЭЛЕГИЯ ИЗ РОССИИ

特 別賞のアレクサンドル・ソクーロフ監督「ロシ
 アン・エレジー」に触れたい。これこそ観客の
 想像力を刺激してやまない作品だから。見る
 者の感性に鋭く問いかけて戦慄させずにおかない映
 画だから。(中略)特殊フィルムを使った画面は夢幻の世
 界にいきなうようだ。がん患者を描いて、ロシアの、ひい
 ては人間の歴史に及ぶ映画といおうか。神の啓示に
 近い何かを感じさせるような作品である。

(『朝日新聞』秋山 登 93年10月14日)



確 かゴドミートリエフの写真は時折、悲しい詩情
 に溢れている。カメラは写真の断面を長々
 ととらえ、ディゾルブにより、同じように長くどこ
 か無限の時間へ行ってゆくようなショットと交代する。
 なぜカメラが突然、この家の隅を、この橋脚を強調する
 のかはまったく不明である。偶然的なショットの断片、
 しかし、次第にこの奇妙な人気のない世界が、まるで
 内側から暖まってくるようになるのだ。

『ロシアン・エレジー』はソクーロフの最も革新的な作
 品であろう。

(オレグ・コヴァロフ)



日本版字幕 © 西周成
 配給 © パンドラ 東京都中央区新富2-5-11 ☎ 03(3555)3987

連日PM9:00より ●特別鑑賞券1枚につき1作品
 のみご利用いただけます。

5/18(土)~20月	ペテルブルグ・エレジー 89年40分(9:40終)
5/21(火)~24金	孤独な声 79年88分(10:28終)
5/25(土)~31金	ロシアン・エレジー 93年68分(10:08終)

5月18日(土)よりレイト・ロードショー!!

特別鑑賞券1400円
 絶賛発売中

第七藝術劇場
 THE SEVENTH ART THEATER

「日曜はしづかに発酵し…」5月18日より待望のモーニング・
 ロードショー(24日迄)連日AM10:00~(1回上映)

阪急十三駅西口、栄町商店街徒歩2分左側
 サンボードシティ6F ☎ 06(302)2073